

タイトル.. 『ファニーたい焼きトム35
砂肝・つくね』

登場人物

主要キャラクター

トム (Tom) 30代前半、男。『たい焼きトム』の店主。アメリカ出身で、日本文化とたい焼きを愛する陽気なエンターテイナー。モットーは「どうせ作るならファニーなたい焼きを！」。日本語は流暢だが、時折変な言い回しを使う。

魚住 (Uozumi) 20代前半、女。『たい焼きトム』のバイト店員。たい焼きが好きだが、トムの突拍子もないアイデアには毎回驚かされる。真面目で心配性だが、結局トムに巻き込まれ、協力してしまう。

第一幕：新しい挑戦

シーン一：店の開店準備

（朝の『たい焼きトム』、店のシャッターが上がり、店内に日差しが差し込む。キッチンではトムが急いで準備している。）

トム（エプロンをつけながら、陽気に）..
「魚住！ 今日こそは新しい革命が起きるんだ！ 君もわかってるよな？」

魚住（カウンターでメニューを並べながら、無理やり笑顔を作る）..
「えっと： 今日も変わらずですか：？ その

れって、砂肝とつくねのあの、まさかの組み合わせですか？」

トム（興奮気味に）..

「その通り！ だって普通じゃ面白くないだろ？ 砂肝のコリコリ感と、つくねのジ

ユーシーさがタッグを組むんだよ！これこそが『フアニー』たい焼きトム』の名にふさわしいんだ！」

魚住（困惑しながらも、顔をしかめる）..
「そ、それはわかりますけど：砂肝とつくねって、あんまり馴染みがない気がして：どうしても：。いや、ま、食べればわかるんですけどね！」

（トムが砂肝をフライパンで炒め始める。コリコリという音が響く。）

トム（目を輝かせながら）..
「この砂肝の音、聞いてごらんよ！まさに食感の予告編！コリッコリで、噛むたびに弾けるような感覚だ！」

魚住（少し興奮し始める）..
「音：確かに！でも、あの食感が甘いあ

んこに対抗できるんですかね：？」

トム（グリルから取り出したつくねを見せながら）…

「このつくね、見てよ！こんがり焼けた表面がカリッとして、中はジューシーで肉汁が溢れ出すんだ！まさに肉の祭り！」

魚住（目を見開く）…

「その肉汁…たまりませんね…でも、こんなにいろいろな味を詰め込んで大丈夫なんですか？」

（トムが特製のタレを砂肝とつくねに絡めながら。）

トム（楽しみに）…

「これだよ！特製のタレ！まるで恋に落ちたかのように、このタレが具材を一体にまとめるんだ！甘さと旨味が絶妙に調和して…ああ、待ちきれない！」

シーン②：最初のお客

（店に最初のお客が入ってくる。若いカップルがメニューを見ながら興味津々。）

客▶（少し躊躇しながら、トムに話しかける）…

「えっと…これが噂の新しいたい焼き…砂肝とつくね…ですか？」

トム（胸を張って、笑顔で）…

「その通り！これは革命的な一品だよ！さあ、食べてみて！あらゆる常識を覆す味が待ってる！」

客♫（不安そうに）…

「うーん…でもちょっとびっくりですね…砂肝とつくねが入ってるとは思いませんでした…。一体どんな味になるんでしょう？」

魚住（無理やり微笑みながら）…

「だ、大丈夫です！これが意外に美味しいんですよ！ちょっとだけ…お試しあれ！」

（カップルがしばらく迷った後、つくね & 砂肝たい焼きを注文。）

客▶（少し緊張しながら、たい焼きを手に取り）…

「いただきます！」

（ひと口食べた瞬間、客▶の顔が驚きと共に変わる。）

客▶（目を見開き、口を開けて）…

「うわっ…これは…まるで新しい世界に足を踏み入れた気分！砂肝のコリコリとつくねのジューシーさ、まさに夢のようなコンビネーション！今まで味わったことないけど、なんだか癖になりそう！」

客 B（驚きながらも、一口食べる）..

「これ、なんでこんなに美味しいんだ...！
砂肝の独特な食感と、つくねの柔らかさが
絶妙に絡み合ってる！でもどこか、あ
っさりとしてる...これはヤバイ！」

（魚住が真剣な顔で見守る。）

魚住（驚きながら）..

「まさか...こんなに評判になるとは...！」

トム（満面の笑みで）..

「そうだろ！俺が言った通りだろう！こ
れが僕の信じる味だ！エンターテイメン
トだよ！ほら、食べてみてごらん、君も！」

（トムが自分でたい焼きを食べると、顔
が一層明るくなる。）

トム（満足げに）..

「最高だ...砂肝とつくねの完璧な balan
ス！まるでダンスをしているかのように、

口の中で踊り出す！どうだい？魚住、これがアートだ！」

シーン②：お客の反応と大混乱の始まり

（店内がどんどん賑わってくる。人々が店に入り、次々に「砂肝&つくねたい焼き」を注文。）

客①（笑顔で、たい焼きを一口食べる）
「これ、すごい！最初はちょっとびっくりしたけど…なんだかクセになる味だ！砂肝の食感がこれまたいいアクセントになってて、後から来るつくねの旨味が濃い！」

客②（声を上げて驚きながら）
「うわっ、これ、なんだこの食感…ちょっと意外だよ！でも一度食べると、また食べたくなっちゃう！」

魚住（カウンターで心配しながら）…

「えっ、こんなに注文が殺到して…どうしよう…ちよつと落ち着いて食べてくださいよ！」

トム（嬉しそうに）…

「魚住、見て！人々は楽しんでるんだ！美味しいものを食べることがこんなに幸せだって、みんなに伝わってるよ！それにしても、どんなに忙しくても、今の俺が一番輝いてる瞬間だ！」

第二幕：波乱の中で

シーン▶：ネットで話題に

（店の外には、どんどん人が集まってきている。SNSで「砂肝&つくねたい焼き」の話題が拡散されているのを、魚住がスマホで見ている。）

魚住（目を丸くしてスクロールしながら）…

「トム…これ、見てくださいよ！SNSにこんな投稿が…！」

（魚住がスマホをトムに見せると、トムが興奮しながらスマホの画面を覗き込む。）

トム（両手を広げて大声で）…

「おお！これが俺たちの力だ！見ろよ、この反応！まさに『たい焼き革命』だ！」

魚住（心配そうに）…

「でも、見てください…レビューがいくつか：『砂肝とつくね、まったく合わない』って…」

トム（まったく気にせず、元気よく）…
「うーん、批判の声もあるけど、これも大事なフィードバックさ！それでも、俺たちの作ったものを信じてくれる人がいる限り、この道を行くんだ！」

（その時、店のドアが開いて、若者たちがドツと入ってくる。）

客四（目を輝かせながら）..

「おお！これが！インスタで見たやつ！砂肝とつくねの組み合わせ、想像できなかったけど、どんな味なんだろう？」

客五（スマホを構えながら）..

「撮影しよう！これは映える！食べる前にまず写真だね！」

（カップルが席に着き、たい焼きを手にとって食べる。）

客四（目を見開いて食べる）..

「うわ、これ、すごい...！砂肝の食感が、まさにバリバリと噛むたびに広がる！でも、そこに柔らかなつくねが絡んできて...一口ごとに全然違う感覚が味わえる！」

客 ㊦（顔をしかめながら）…

「うーん、でも正直言って、最初はちょっと…違和感があった。でも、何回も食べてるうちにクセになる感じ！」

魚住（不安げに、横から話しかける）…

「でも…ちょっとお待ちください。あの…味って、やっぱり、合うんですね？？」

客 ㊦（にっこりと笑いながら）…

「うん！意外に合うんだよ！砂肝の食感がつくねのジューシーさとマッチしてるし、タレが全体をうまくまとめている！」

トム（力強く胸を張って）…

「その通り！このコラボレーションこそ、最高のチームワークなんだよ！どんなに奇抜でも、僕の作るたい焼きは間違いない！」

シーンの：困惑するお客たち

（店内で、次々と新しいお客がやってきて、食べていく。意見は分かれるが、盛り上がりは加速していく。）

客②（ちょっと苦笑いしながら一口食べる）…

「うーん、最初は本当に『大丈夫かな？』って感じだったけど…食べるうちに、だんだんクセになってきた！」

客③（顔をゆがめて）…

「正直言うと、最初は無理かと思ったけど、食べ続けてたら…なんかジワジワ美味しく感じてきた。砂肝が硬いけど、つくねがうまく包み込んでくれるんだよね。」

トム（にっこりと笑って）…

「おお、そうだろう？最初は誰でも驚く。」

でもそのギャップが面白いんだ！食べてみて、もっと深く味わってごらんよ！」

魚住（目を大きく開けて周囲を見渡しながら）..

「いや：本当に大丈夫ですか？こうやって皆さんが食べてると：ますます変な気分になりますけど：」

（その時、別のお客が口を開く。）

客「（やや興奮しながら）..

「これ、まさに『新感覚』だ！最初は『うわ、無理かも：』って思ったけど、食べるたびに引き込まれる！」

客「（自信満々に）..

「はい、これ、絶対にリピートするよ！砂肝の食感がなんか、面白いけど、最後はつくねの肉汁が支配するんだ！うん、これ、クセになりそうだ！」

トム（魚住に向かって）…

「見て！みんな、食べるたびに笑顔になるんだ！まさに僕の目指していた『フアニーな』たい焼きの形だよ！」

第三幕：成功の兆し

シーン⑨：安定した人気

（数日後、『たい焼きトム』の外には長蛇の列ができ、人気はますます加速していく。魚住が忙しそうに接客している。）

魚住（忙しそうに接客しながら、トムに話しかける）…

「トム！見てください、また新しいお客さんが！このペースじゃ、キッチンがパンクしそうですよ！」

トム（余裕で微笑んで）…

「大丈夫さ、魚住。これこそが僕たちの

時代だ！次々と新しいアイデアを打ち出して、みんなを驚かせるんだ！」

（店に次々とお客がやってくる。カウンターで、魚住が忙しく対応しながらも、何とか安定感を見せ始める。）

魚住（心の中で）..

「こんなに受け入れられるなんて…正直言って、最初は不安だったけど、これなら続けられるかもしれない！」

（トムが次のたい焼きの準備をしながら、さらに新しいアイデアを考えている。）

トム（にんまりと）..

「次は、チーズとカレーで攻めてみようか！それも絶対に斬新だよ！いける、いける！」

第四幕：予期せぬ逆風

シーン↳：批判的なレビュー

（SNS に新たな批判的な投稿が増え始める。魚住がそれを見て、焦った顔をする。）

魚住（冷や汗をかきながら）…

「トム、大変です！ ネットでこんなレビューが… 『つくねと砂肝の組み合わせ、最悪』 『ただの食べ物の無駄遣い』 って…」

トム（冷静に、少しも動じず）…

「ほら、またフィードバックが来たか。良いレビューもあれば悪いレビューもある。どんな意見も俺たちの力に変えるんだ！」

（トムが一つ一つのレビューに冷静に対応しながら、前向きな姿勢を見せる。）

トム（にやりと）…

「みんなの反応は素晴らしい！でも、次に行こう！新しい挑戦が待ってるんだ！」

第五幕：勝利の瞬間

シーン∞：再び客が戻ってくる

（数週間後、再び『たい焼きトム』に客が戻ってきて、評判が広がる。）

客A（にっこりと笑いながら）…

「やっぱり、この『砂肝&つくねたい焼き』が一番！最初は驚いたけど、今ではこれが一番の癖になってる！」

客B（大きな声で）…

「私も！最初はちょっと…でも何度も食べるうちに、味が染みついてきた！」

（魚住も安堵し、トムが満足そうに微笑む。）

魚住（安堵の表情で）…

「これで本当に安心しました…。最初は不安でいっぱいだったけど、やっぱりお客さんがリピートしてくれるんですね…」

トム（力強く、胸を張って）…

「そうだろう？どんなに奇抜でも、自分が信じる味を提供することが大事なんだ！さあ、次に行こう、魚住！」

エンディング：

（夕日が沈む中、店の外でトムと魚住が並んで立ち、新しいたい焼きを作りながら話している。）

トム（爽やかな笑顔で）…

「これからもっと面白いことをしていこう、魚住！次は何を挑戦するか…楽しみだ！」

魚住（笑顔で頷きながら）…

「…はい、トム。私も、一緒に頑張ります！」

（そして二人は、最後のたい焼きを焼き上げながら、夕日を背に笑顔を交わす。）